

空き家にしない考え方

第5回 定住環境プランナーとは

定住環境プランナー
中村 周子

移住コーディネーターではなく、定住環境プランナー

第5回は「定住環境プランナー」とは何かという話を書きたいと思います。他市町村の移住担当者には「移住コーディネーター」とか「移住コンシェルジュ」という肩書きがよく使われています。この名称は「移住者に総合的な案内をする人」というイメージがありますが、私はこの名称を使うことには抵抗がありました。というのも、大鹿村には移住に関する2つの課題があって、総合案内は難しいと感じていたからです。

2つの課題というのは「移住者が引っ越してできる空き家」と「移住者が生活するための仕事」が圧倒的に少ないということです。大鹿村は魅力的な素晴らしい村ですが「家」と「仕事」があれば、もっと移住者を呼びやすくなると思います。そこで移住できる環境を整え、プランを立てる人という意味で「定住環境プランナー」という名称を提案し、採用されました。

これまでに取り組んだこと

【冊子・空き家にしない考え方を全戸配布】

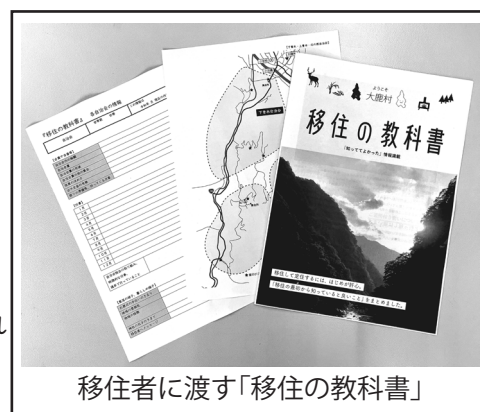
2023年4月に「空き家が増えて困ること」や「空き家にしないためにできること」をまとめた冊子を全戸配布しました。村ホームページにも掲載したところ、豊丘村の移住担当者さんから「とても良い!」との評価を頂きました。大鹿村と同様のことで困っているの、同じような冊子を作ることになったそうです。

【大鹿しごとストックをホームページに掲載】

大鹿しごとストックは移住者も村内在住者も使える仕事の掲示板です。2024年4月から村のホームページで誰でも閲覧できるようになっています。半農半Xを生業にして移住したい、という移住希望者のX部分の仕事探しにも活用してもらえるように作りました。

【移住者に渡す、移住の教科書を作成】

村内の方の目に触れる事はありませんが、移住者に渡す「移住の教科書」を作成しました(写真右)。ゴミの捨て方や冬季の様子など、移住する前に知っておいた方がいいことと、自治会や消防団の役割も記載し、積極的な参加をお願いしています。各自治会の年間行事やきまり(写真左)と、集会所とゴミ収集場所の記載された自治会地図(写真中央)も一緒にお渡しすることにしました。



移住者に渡す「移住の教科書」

これからの予定

これからの大きな目標は次の2つです。

- ①集落活性化計画：各自治会で計画を作成し、空き家対策も盛り込んでいく予定です。
- ②5年で100人プロジェクト：5年間で100人の移住者を呼ぼうという計画です。令和7年度から試験的に始めて、令和8年度から本格的に実施する予定です。村で空き家を10年間借りあげて、修繕をし、移住者に賃貸住宅として貸し出す計画も、5年で100人プロジェクトの中に含まれています。